

CAPS Newsletter

The Center for Asian and Pacific Studies, Seikei University

No.169, January 2026

目次

〈CAPS オンライン講演会のご案内〉.....1	〈ONLINE CAPS CINEMA 2025〉.....4
〈CAPS 企画の報告〉	〈シリーズ 本を読む〉
成蹊大学アジア太平洋研究センター主催 オンライン講演会 「2027年 台湾有事一掃らされる世論と冷徹な現実」報告 CAPSポスト・ドクター 韓 相一.....2	徐任教「分断八〇年 韓国民主主義と南北統一の限界」 (集英社、2025年) 法学部 教授 李 セボン.....5
〈2025年度 研究プロジェクト紹介〉	〈CAPS 活動報告〉.....6
パイロット研究 「法執行プロセスの責任ルールに関する経済分析」 経済学部 准教授 矢作 健.....3	

CAPS オンライン講演会のご案内

アジア太平洋研究センターでは以下のオンライン講演会をYouTube公式チャンネルにて公開しております。みなさまのご視聴をお待ちしております。

成蹊大学アジア太平洋研究センター主催オンライン講演会

日比野 啓 成蹊大学文学部教授 第51回大佛次郎賞受賞記念講演会

曾我廼家五郎と戦前の文化状況
「松本学日記」をもとに

2025.9.1 配信開始

YouTube (オンデマンド配信) にご視聴いただけます
2025.9.1-2026.8.31
https://www.youtube.com/@caps_official

成蹊大学 アジア太平洋研究センター
〒162-8601 東京都三軒茶屋4-1-1
TEL: 03-3256-1100 FAX: 03-3256-1101
E-MAIL: info@caps-official.jp
URL: www.caps-official.jp

成蹊大学アジア太平洋研究センター オンライン講演会

成蹊大学アジア太平洋研究センター研究員企画
YouTube オンデマンド配信
韓国政治と日韓関係
1987年民主化から
李在明政権の展望

2025.8.1より
YouTube配信開始

講演者 HAN SANG-IL 韓相一
成蹊大学アジア太平洋研究センター 研究員
九州大学文学部卒業後、2004年成蹊大学大学院人文科学研究科修了。博士(文学)。専門は近代日韓政治外交史。

2025.8.1より
YouTube配信開始

YouTube成蹊大学
アジア太平洋研究センター
公式チャンネルを
開設いたしました。
https://www.youtube.com/@caps_official

成蹊大学 アジア太平洋研究センター Center for Asian and Pacific Studies (CAPS)
〒162-8601 東京都三軒茶屋4-1-1
TEL: 03-3256-1100 FAX: 03-3256-1101
E-MAIL: info@caps-official.jp
URL: www.caps-official.jp

成蹊大学アジア太平洋研究センター オンライン講演会

YouTube オンデマンド配信
2027年
台湾有事
一掃らされる世論と冷徹な現実

2025.11.1より
YouTube配信開始

講演者 Igarashi Takayuki 五十嵐 隆幸
新島研究科地域研究部中国研究室
専門研究員・博士(政治学専攻)
2002.12- 成蹊大学国際関係学部
2003.3- 国際政治学専攻
2003.4- 上野大学グローバル
スタディーズ研究所
東京外国語大学国際関係学専攻

2025.11.1より
YouTube配信開始

YouTube成蹊大学
アジア太平洋研究センター
公式チャンネルを
開設いたしました。
https://www.youtube.com/@caps_official

成蹊大学 アジア太平洋研究センター Center for Asian and Pacific Studies (CAPS)
〒162-8601 東京都三軒茶屋4-1-1
TEL: 03-3256-1100 FAX: 03-3256-1101
E-MAIL: info@caps-official.jp
URL: www.caps-official.jp

成蹊大学アジア太平洋研究センターのYouTube公式チャンネルは右記QRコードからご視聴いただけます。



https://www.youtube.com/@caps_official

CAPS 企画の報告

成蹊大学アジア太平洋研究センター主催 オンライン講演会 「2027年 台湾有事一踊らされる世論と冷徹な現実」報告

CAPS ポスト・ドクター 韓 相一

成蹊大学アジア太平洋研究センター (CAPS) 主催のオンライン講演会「2027年 台湾有事一踊らされる世論と冷徹な現実」は、2025年9月1日からCAPSのYouTube公式チャンネル上で公開されている。

近年、中国人民解放軍が、台湾上陸を想定した軍事演習を行うなど、2027年台湾侵攻の可能性があたりかままりつつあるかのような報道が続いている。歴史的視座や直近の地政学的な情勢を踏まえ、これらの見方は本当に正しいのか、中国・台湾情勢研究者の五十嵐隆幸氏（防衛研究所地域研究部中国研究室）にご講演いただいた。

台湾有事のナラティブができるまでの歴史

本講演において五十嵐氏は、現代日本の安全保障を語る上で欠かせなくなった台湾有事について、言説と現実を切り分けて説明した。まず、台湾有事のナラティブがいつ形成されたのかについて述べる。それは、2021年3月にアメリカのフィリップ・デービッドソン (Philip S. Davidson) 提督が提議した、2027年台湾侵攻説が起源である。日本においては、同年2021年12月に安倍晋三元総理が「台湾有事は日本有事でもあり、日米同盟の有事でもある」と発言し、大きな波紋を起こした。こうして一つの可能性に過ぎなかった台湾有事のナラティブが拡散した。

では、現在の台湾海峡はいかなる状況であるのか。中国の軍事力が前年比概ね2桁増しているほど、飛躍的に増強されている点に注目すべきだ。これだけを見れば、中国はいつでも台湾侵攻ができるよう準備しているように見えるが、制度・ドクトリンの面ではどうだろうか。中国は武力行使の条件について反国家分裂法を制定し公表している。中国の統一原則は、国内法の規定に基づき、台湾を平和的方式で統一するというものである。こうした原則があるため、すぐに戦争は起こるものではないものの、中台の緊張度は高まっているのが現実である。

台湾海峡をめぐる緊張は、近年の台湾有事に限るものではなく、冷戦の時代から現在に至るまで続いている。また、アメリカを巻き込んだ国際政治の焦点になっていること(米中対立の縮図)がわかる。その結果、台湾の危機が結果的に台湾社会を変化させ、台湾アイデンティティの形成を促した。

さまざまな台湾有事シナリオ

アメリカが提唱した2027年侵攻説の根拠はいか

なるものなのか。2020年頃からの各種報道や分析では、習近平主席の3期目続投のために政治的な成果を作るためと言われてきた。しかし、中国は2018年3月の憲法改正により、3期以上の再選が可能となっていた。五十嵐氏は、すでに憲法改正によりハードルはなくなった状態であるが、周辺国の思い込みにより「台湾侵攻は続投するための政治的業績作り」というナラティブが形成されたと指摘する。また、中国の歴代指導者たちは、「統一」の期限を先延ばししてきたことも挙げる。以上から、中国の台湾侵攻を引き起こすトリガーになりうるのは、台湾独立宣言や諸国の台湾独立承認といった、中国の反国家分裂法に違背する状況であると述べる。



五十嵐隆幸氏

日本と国際社会への影響

もし、中国が台湾侵攻を行う場合、日本に対していかなる動きを取るだろうか。多くの専門家は、沖縄の米軍基地が攻撃されるだろうと予想する。しかし、五十嵐氏は、中国側は戦線の拡大と「国内問題」に対する他国の介入を防ぐために、そうした行動は行わないだろうと観測する。日本の経済安全保障の面においては、台湾は世界最先端の半導体の9割を製造しており、もし台湾有事が起きれば、その影響は日本に留まらず全世界に波及する。また、台湾は日本のシーレーンの要衝でもあるため、エネルギー輸入などにも大きな影響を与え、日本経済に直撃する。日本への台湾避難民の受け入れ問題という課題も浮上するだろう。

中台問題は、各国からさまざまな声明が出されており、国際秩序の行方を左右する分岐点にもなっている。だからこそ、五十嵐氏は台湾有事をめぐるナラティブに踊らされず、現実を正視しなければならないとし、もし「台湾有事」が起きたら、自分たちはどのように対応するのか、「台湾有事」を抑制するために、今、自分たちには何ができるのか、視聴者一人一人が冷静に議論する契機になることを願いつつ、本講演をまとめた。

2025年度 研究プロジェクト紹介

パイロット研究

法執行プロセスの責任ルールに関する経済分析

経済学部 准教授 矢作 健

経済学の知見は他の学問分野にも広く応用されています。その大きな理由は、経済学が持つ独自の分析手法にあります。経済学では、個人、企業、組織、政府といった経済主体が合理的に自己の利益を追求するという前提のもとで議論を進めます。このように、経済学は対象領域ではなく分析手法によって定義され、あらゆる社会現象を体系的に分析できる点で、他の社会科学とは異なる特徴を有しています。

その中で私は「法と経済学」を専門とし、法制度や司法制度を経済学的手法で分析し、その制度設計や経済的帰結を解明する研究を行っています。今回のパイロット研究では、法と経済学の中でも「法執行」に焦点を当て、法執行過程における利己的行動とその社会的影響を理論的に分析しました。

法執行とは、特に刑事法領域において、犯罪行為の取締りや罰則の執行といった一連のプロセスを指します。警察や検察といった法執行官は、証拠収集、逮捕、起訴などの重要な役割を担っています。しかし近年の研究では、彼らが必ずしも社会的に望ましい行動をとるとは限らないことが指摘されています。第一に、法執行官は懲罰的嗜好や評判への関心といった私的動機に基づき行動することで、公益を歪める「エージェンシー問題」を引き起こします。第二に、証拠操作や情報の選択的開示といった目的志向的な「戦略的歪曲」を行う可能性があり、公正な司法手続きを損ないます。第三に、捜査や逮捕の過程で強圧的な手法を用いることで、市民の自由や司法

制度への信頼を損なう危険があります。これらは、法執行権限の行使に対する適切な規制設計の重要性を示唆しています。

本研究では、こうした問題を踏まえ、法執行プロセスにおける不祥事を抑制しつつ、どのように法執行官の行動を最適に規律すべきかという観点から、規制(責任)ルールを理論モデルによって検討しました。具体的には、法執行官が証拠収集の過程で、市民のプライバシーを侵害する「攻撃的な法執行」を選択できる状況を想定し、彼らが犯罪抑止という懲罰的動機と自己利得を同時に追求する中で、規制がどのような効果をもたらすのかを分析しました。その結果、規制強化は「攻撃的な法執行」を抑制する一方で、犯罪抑止の効果自体も弱めてしまうため、必ずしも社会厚生の上昇につながらない場合があることを示しました。

これらの結果は、法執行官の利己性や不適切な捜査行為に関する学術的・政策的議論の双方に重要な示唆を与えます。特に、法執行の質に関する規制の可能性と限界を理論的に明らかにした点は、既存研究に対する大きな貢献です。今後は、裁判所といった司法機関の役割に着目し、制度的調整による改善可能性を検討する予定です。司法の戦略的行動をモデルに組み込み、三権分立の枠組みにおける最適な制度設計を追求します。本研究は、経済学のみならず、法学や政治学を含む社会科学全体に高い学術的価値と政策的貢献を有するものと期待されます。

法と経済学での法執行モデル(Optimal Law Enforcement)

法執行者	(1) 攻撃的な法執行 (2) 通常の法執行
犯罪者	犯罪の便益とコスト(期待罰則)の比較
社会厚生	犯罪者の効用－犯罪による被害－取り締まりのコスト

※ 法執行者は、社会厚生を最大にするよう行動

ONLINE CAPS CINEMA 2025

アジア太平洋研究センターではユニテッドピープル社が提供するオンライン映画配信サービスcinemo.bizを導入し【ONLINE CAPS CINEMA 2025】を開催しています。このサービスは成蹊大学大学生と成蹊学園(小学校・中学校・高等学校・大学)の全教職員が申し込み可能です。期間は2026年3月31日まで無料で映画を視聴できます。

2025年度は以下の6作品を選定しており、ご自身のパソコンやスマートフォンで視聴可能です。

1. 女を修理する男
[2015年/ベルギー/人権・生活医療]
2. ガザ・サーフ・クラブ
[2016年/ドイツ/平和・問題解決]
3. ゴースト・フリート
—知られざるシーフード産業の闇
[2018年/アメリカ/人権・社会変革]
4. 戦地で生まれた奇跡のレバノンワイン
[2020年/アメリカ/政治経済・伝統文化]
5. パブリック・トラスト
[2020年/アメリカ/環境・多様性]
6. バベルの学校
[2013年/フランス/教育・多様性]

登録方法や視聴方法については、CAPSウェブサイトをご覧ください。

で検索！

視聴サイト内ではCAPS研究員による「見どころ」が掲載されています。ここでは『バベルの学校』の「見どころ」を紹介します。

「なぜみんな同じ言葉を使わないの？」

旧約聖書には、同じ言葉を使っていた人々が天まで届く塔を築こうとしたとき、神がそれを見て人々の言葉を乱し、世界中に散らした—という「バベルの塔」の物語がある。この物語は、人々が異なる言語を話すようになった理由を説明する際によく使われている。

冒頭の問いは、パリ市内のある中学校に通う子どもたちの間でも生まれていた。その学校の「適応クラス」というクラスには、20カ国から来た11歳から15歳までの24人の子どもたちが集まっており、

言葉の違いをはじめ、さまざまな疑問や悩みを抱えていた。映画『バベルの学校』は、そんな子どもたちの1年間の喜びや悩み、そして成長の姿を記録したドキュメンタリー作品である。

フランスでは、外国から来たばかりの子どもたちがフランス語を集中的に学べる「適応クラス」が設けられている。子どもたちは普通クラスに移る前に、まずこのクラスで勉強する。

しかし、子どもたちの悩みは言語だけではなく、家庭の事情、宗教、文化の違いといった多文化クラスならではの問題に加え、成績や大人との衝突など、10代の子どもがよくある悩みも多く抱えていた。

「お母さんに会いたい」
「なぜ空は青いの？」
「フランス語がうまく話せないから笑われた」
「神様はいるの？」

こうした子どもたちの声に耳を傾けていたのが、担任のブリジッド・セルヴォニ先生である。

セルヴォニ先生は、子どもたち一人ひとりを温かく見守り、ときに子どもたちと一緒に悩みながらサポートしていた。

この作品には、優しいセルヴォニ先生のもとで、子どもたちはさまざまな葛藤を抱えながらもフランスで遊び、学び、そして成長していく姿は、ありのまま映し出されている。

近年、日本でも外国人政策が注目されており、外国人労働者や訪日観光客などをめぐる議論が広がっている。2025年には在留外国人数が過去最多を更新し、日本の総人口に占める割合はおよそ3%であり、これからも増加する見込みである¹。これからの日本の学校でも、異なる宗教や文化的背景を持つ子どもたちが同じ教室で学ぶことは、もはや珍しいことではなくなるだろう。

しかし、多文化共生社会の実現には、環境の整備や偏見・差別の解消など、まだ多くの課題が残っている。

『バベルの学校』を通して、私たちは多文化社会の一員としてどのように生きるべきか、そのヒントを見つけることができるかもしれない。

執筆者：主任研究員 蔡珂
(専門分野：歴史学)

1 「在留外国人 日本の総人口の3%(きょうのことば)」『日本経済新聞』2025年7月31日朝刊3ページ。

シリーズ 本を読む

徐台教『分断八〇年 韓国民主主義と南北統一の限界』（集英社、2025年）

法学部 教授 李 セボン

2024年12月3日の夜に流れてきた韓国における非常戒厳令発布のニュースは、韓国にいた多くの人びとにとって出来の悪い冗談のようなものだった。民主化から30年以上経つ韓国社会において非常戒厳令だなんて、想像もつかない事態であった。しかし、韓国政府および政治体制に対するその漠然とした信頼こそが、尹錫悦政権に再び時代錯誤的な行動を取るだけの自信を与えたのかも知れない。あの夜、大統領の発表を見てすぐさま国会議事堂に向かった一般市民や、瞬時に組織的な対応を呼びかけた野党の国会議員、軍人たちの「抗命」などによって、戒厳令はすぐ解除され、韓国民主主義の底力が話題になった。だが、その後明らかになった戒厳令をめぐる尹政権のさまざまな企てに関するニュースは、韓国の民主主義がいかに脆弱な土台の上に成り立っているものかを思い知らせてくれた側面も有する。

著者徐台教^{ソテギョ}は、ここ一年の戒厳令をめぐる事態を受け、なぜこのような出来事が、2024年の韓国で再び起こり得たのかを問う。その際、話の軸となるのが、南北分断以来の韓国現代史80年の展開である。あの夜を韓国国会議事堂の現場で目の当たりにした在日コリアンの在韓ジャーナリストである著者は、歴史を振り返り、そのすべてを可能にした根源的な原因を南北分断に見出す。

1945年8月から約3年間、日本の植民地から独立した朝鮮半島には、いわゆる「解放空間」と呼ばれる時期が存在する。当時の朝鮮半島には、独立国としての新たな始まりを夢見たいくつかの政治勢力（共産党勢力を含む）が存在したが、38度線を境界にした米ソによる朝鮮半島の信託統治が決定された現実を前に彼らは分裂して行った。日本からの「解放」と同時に「分断」は始まったのである。日本ではもちろんのこと、韓国の高校までの教育課程においてもほとんど知られていないこの「解放空間」に注目し、そこで活躍した呂運亨（1886～1947）を軸に南北分断への過程を論じる場所は、本書の大きな特徴である。呂は、「解放空間」における世論をリードし、統一国家としての将来をもっとも冷静かつ具体的に描いた独立運動家出身の政治家であったが、李承晩や朴正熙政権の下で、その存在感を消された人物である。その呂に光を当てながら、朝鮮戦争以



前からの南北分断をめぐる政治状況を丁寧に探るといふアプローチは、「分断をどうにか克服しない限り、韓国社会の未来が明るくなることは決してない」（72頁）と確信する著者ならではのものであろう。

互いを敵対視しながらそれぞれの政権を維持した南北関係は、1987年の韓国の民主化以降、少しずつ改善されて行き、2000年、2007年、2018年には、南北首脳会談が実現されるにまで至った。だが、政権交代によって韓国政府は一貫したメッセージを送ることに失敗し、とりわけ尹錫悦政権の下では、ほぼすべてのチャンネルが絶たれ、南北関係は最悪の状況に追い込まれた。尹の非常戒厳令宣布は、「分断八〇年」の韓国の歴史において繰り返された、政権維持のために南北対立を利用した手法の一環として捉えられるものである。

現在、多くの朝鮮半島の住民たちは、一つの国家を前提とする「南北関係」より、実質的な「二国家関係」の支持へ向かいつつあると言われる。本書は、そのような現状に至るまでの経緯、さらにはその起源を知るための最善の選択であるに違いない。若き（40代後半）在日コリアンである著者ならではの、朝鮮半島に対する距離感と愛情が生み出す独特の視線にぜひ一度触れて頂きたい。

CAPS 活動報告 (2025.9.16 ~ 2025.12.15)

1. 公開講演会、研究会等

～ CAPS主催オンライン講演会～

＜ YouTube / オンデマンド配信＞

「2027年台湾有事一躍らされる世論と冷徹な現実」

期 間	2025年11月1日(土) ～ 2026年10月31日(土)
対 象	一般、学生
出 演 者 (敬称略)	五十嵐 隆幸 (防衛研究所地域研究部中国研究 室専門研究員／博士(安全保障学))
司 会 者	永野 護 (CAPS所長・経済学部教授)

～ CAPS主催講演会 (2025年度アジア太平洋研究センター・オムニバス講義『共生社会トピックス：アジア太平洋地域の国際協力と開発援助』第3回講義を一般公開～
「ドイツと欧州のイノベーション：日本との比較」

開 催 日	2025年10月14日(火)
講 演 者 (敬称略)	アクセル・カーペンシュタイン (ドイツ学術 交流協会 (DAAD) 東京事務所所長・DWIH 東京所長)
司 会 者	永野 護 (CAPS所長・経済学部教授)
参加者数	109名

～ CAPS主催講演会 (2025年度アジア太平洋研究センター・オムニバス講義『共生社会トピックス：アジア太平洋地域の国際協力と開発援助』第9回講義を一般公開～
「韓国における労働市場・少子化の現状」

開 催 日	2025年11月25日(火)
講 演 者 (敬称略)	金 明中 (ニッセイ基礎研究所生活研究部上 席研究員)
司 会 者	永野 護 (CAPS所長・経済学部教授)
参加者数	109名

～ 招聘外国人研究員によるセミナー～

“Desiring Utopia: On the Poetry of Chris Tse”

開 催 日	2025年12月4日(木)
講 演 者 (敬称略)	Dougal McNeill (ヴィクトリア大学上級講 師)
司 会 者	遠藤 不比人 (文学部教授)
参加者数	4名

～ プロジェクト研究会～

開 催 日	2025年10月4日(土)
プロジェクト名	中国の挑戦とインド太平洋—「自由で開かれ た国際秩序(FOIO)」の展望
講 演 者 (敬称略)	畠山 京子 (新潟県立大学教授)
参加者数	10名

開 催 日	2025年10月11日(土)
プロジェクト名	ファンの心理と行動に関する研究
講 演 者 (敬称略)	吉見 憲二 (経営学部教授) 上田 泰 (経営学部 教授)
参加者数	25名

開 催 日	2025年11月22日(土)
プロジェクト名	ファンの心理と行動に関する研究
講 演 者 (敬称略)	上田 泰 (経営学部教授)
参加者数	15名

開 催 日	2025年11月26日(水)、27日(木)
プロジェクト名	中国の挑戦とインド太平洋—「自由で開かれ た国際秩序(FOIO)」の展望
講演形式	防衛大学校グローバルセキュリティーセ ンター (GS) とスウェーデンの国防研究所 (FOI) の共催によるセミナー／ワークショッ プに参加
参加者数	9名

2. 研究出張

～ 国内出張～

期 間	2025年10月23日(木) ～ 10月24日(金)
プロジェクト名	ファンの心理と行動に関する研究
出 張 者	吉見 憲二 (経営学部教授)
行 先	熊本県阿蘇市
目 的	シンポジウム参加、現地調査

3. 会議の記録

開 催 日	2025年9月30日(火)
会 議 名	第4回企画執行委員会 (ZOOMによるオンラ イン会議)

開 催 日	2025年11月17日(月) ～ 11月25日(火)
会 議 名	臨時企画執行委員会 (メール会議)

CAPS Newsletter No.169

2026年1月15日発行

編集発行：成蹊大学アジア太平洋研究センター
〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

☎ 0422-37-3549

E-mail: caps@jim.seikei.ac.jp

Web: <https://www.seikei.ac.jp/university/caps/>

CAPS の公式ウェブサイトは
コチラ→

